

支 援 事 業 報 告 集



愛芸アシスト基金

2024
年度

ご賛同いただいた皆様へ

2024年度 愛芸アシスト基金 支援事業日程表

01

オペラ公演 歌劇《フィガロの結婚》
2024年12月7日(土)、8日(日)
長久手市文化の家 森のホール

02

愛・知・芸術のもりから
2024年8月～2025年3月 計4回
SMBCパーク栄

03

愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会支援
2024年4月～2025年3月 展覧会開催回数:11回
愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURA

04

障害者福祉支援事業としての陶芸アート
出前講座
2024年12月3日(火)、10日(火)、2025年1月21日(火)
布袋病院

あいち・アールブリュット優秀作品特別展
2025年3月11日(火)～3月16日(日)
愛知芸術文化センター アートスペース12階G

日頃は愛芸アシスト基金にご支援を賜り、まことにありがとうございます。
また、本学の展覧会や演奏会にも足をお運びいただき心より御礼申し上げます。
本学は、もうすぐ60周年を迎えますが、これまで国際的に活躍する芸術家のみならず、芸術文化に寄与している多くの卒業生を輩出してきました。今後も、芸術の可能性を
探求した学生達が「芸術の力」を身につけ、やがてこの地域や世界で活躍していきます。
これも県民の皆様や地域の皆様、そしてなによりこの愛芸アシスト基金にご賛同をいただきました皆様のご理解とご支援の賜物です。
本学はこれからも将来の芸術文化を担う人材を育成すると同時に、芸術活動を通して地域に貢献していく所存です。
今後とも皆様に愛される芸術大学として、一層の努力をしてまいります。
何卒、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

愛知県立芸術大学
学長 白河 宗利



01 大学オペラ公演2024 歌劇《フィガロの結婚》



主要な登場人物全てに「企み」「だましあい」がある、このオペラの舞台を「トランプゲーム」で表現したらどうか…という舞台美術デザインの佐藤直木教授の仰天アイデアは、コロナ禍、声楽専攻の研究室やレッスン室で使用され、廃棄間近だった30数枚の飛沫パネルと結びつきました。

ターボリン生地に様々なトランプの絵柄や森をイメージしたデザイン、扉の絵柄が印刷され、貼られたパネルは舞台に所狭しと並び、ある時は伯爵の部屋、ある時は森の中、またある時はカジノの大広間…と自在に長久手市文化の家の舞台空間を変えていきました。

本学では2008年以降上演していなかった《フィガロの結婚》ですが、国内外で指揮、演出経験豊富な桑原、飯塚各非常勤講師の徹底した指導のもと、キャスト、管弦楽、合唱とも充実した演奏、演技を繰り広げました。お陰様でこれまでにない盛り上がりのうちに終演しました。

また、2024年度は「プレミアシート」という券種設定を試行しました。シート購入を通じて、本学でオペラを学ぶ学生と、本学大学オペラ公演を支援してほしいという願いはA券2,500円の倍、5,000円という設定であるにもかかわらず、発売

開始後あっという間に売り切れました。

特定工事休館となる長久手市文化の家を一時離れ、2025年12月の大学オペラ公演は名古屋市青少年文化センターで行うこととなりました。大道具等で利用する各種材料費、人件費、物流費用の高騰という、かなり強い向かい風が襲ってきますが、愛芸アシストに出資いただく皆様のお力を頂き、本年度の公演も乗り越えていきたいと思ひます。引き続きのご支援、ご協力をよろしくお願いします。

初鹿野 剛
(音楽学部声楽専攻教授、大学オペラ制作責任者)



02 愛・知・芸術のもりから



名古屋の中心に位置するSMBパーク栄で開催されるコンサート・シリーズ「愛・知・芸術のもりから」は、2024年度で15年目を迎えました。このコンサートは、各専攻・コースから選ばれた優秀な本学卒業生・修了生たちが音楽を発信する舞台となっています。若い彼らは、すでに各地で活躍しはじめている演奏家たちですが、このコンサートは、彼らを後押しする重要なキャリア支援となっており、また、愛知芸大の素晴らしさを広く知っていただける絶好の機会ともなっております。

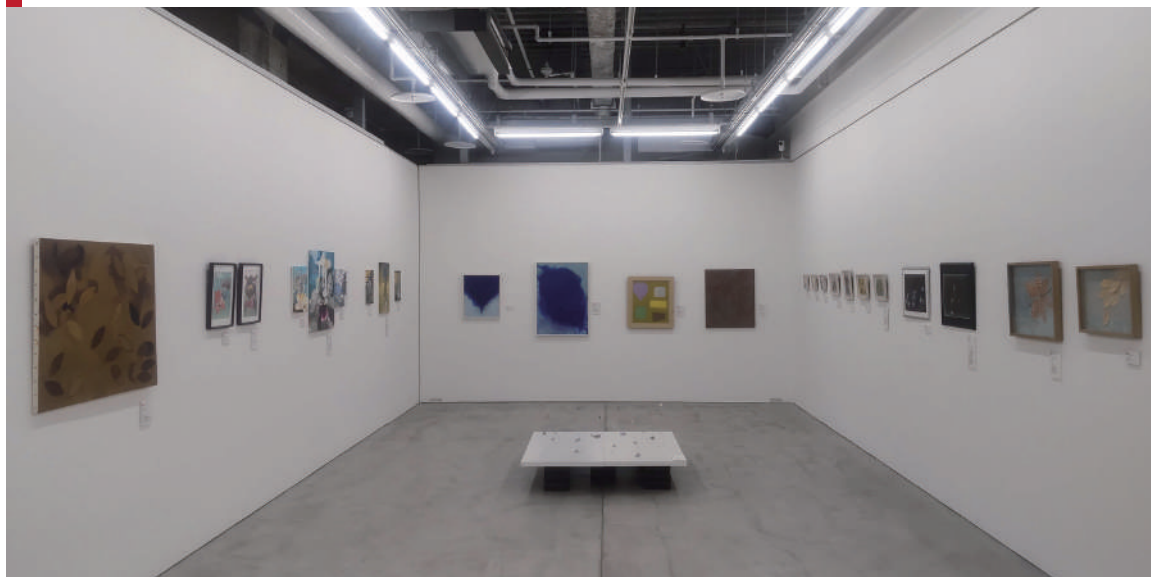
2024年度は、声楽、ピアノ、弦楽器、管打楽器の在学学生・卒業生・修了生から計4グループが出演させていただきました。毎回満席に近いお客さまにお楽しみいただけたことに、心から感謝しております。

今後とも皆様のご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

成木 理香（音楽学部長兼音楽研究科長）



03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーSA・KURAでの展覧会支援



A・FAM展@NAF2024 (第5回愛知県立芸術大学美術学部同窓会展)

2024年度は、年間を通じて11回の展覧会を開催いたしました。内訳は以下の通りです。

(1) 収蔵品展

8月24日(土)～9月15日(日)は金子学芸員が夏目漱石の『夢十夜』の第一夜の話に基づいて企画した「コレクション ノットコレクション展 夢の中で」で、収蔵品の中から横山奈美や城戸保、その他関口敦仁や内藤光穂の作品などを展示しました。

(2) 活躍する卒業・修了生個展

4月13日(土)～5月5日(日)は本学油画専攻出身の菅隆紀の「HOGAN」展が行われ、倉地教授とのトークも行われました。5月11日(土)～6月2日(日)は本学油画・版画領域修了のつづきりょうこの「Layer」展、6月9日(日)～6月30日(日)は、本学彫刻領域を修了した浅野典子の「刹那の記憶」展、9月28日(土)～10月20日(日)は油画・版画領域を修了した石場文子の「permanent object / 永久オブジェクト」展、11月24日(日)～12月15日(日)は、油画・版画領域修了の織田真二による個展「JOUSETSU3→#satellitegallerysakura」と、以上5名の若手アーティストの展覧会が行われました。

(3) アーティスト・イン・レジデンス成果発表展

7月13日(土)～7月21日(日)は、アーティスト・イン・レジデンス2024 成果発表展として本学が招聘したサウンドアーティスト北條知子氏による「recordari」展が行われた。本学に滞在しながら、制作活動のほか、アーティストトークやワークショップを行い、その成果を展示しました。

(4) 同窓会展

10月25日(金)～11月17日(日)は「A・FAM展@NAF2024」(第5回愛知県立芸術大学美術学部同窓会展)を開催しました。NAF展(ながくてアートフェスティバル)と連携し、期生や専攻の枠を超えた交流の機会となりました。

(5) 教員の個展

1月18日(日)～2月9日(日)は、美術学部油画専攻講師、田中藍衣による個展「共有地」が開かれ、その精緻な作風で多くの入場者を集めました。

(6) 共創研究

3月8日(土)～3月14日(金)は名古屋工業大学と愛知県立芸術大学による共創研究「- DigitalとPrimitiveが会おう -」展が開かれ、陶芸素材が変化していく様子を仮想空間に可視化した映像作品が展示されました。

(7) 博士学位論文・作品展

2月20日(木)～2月26日(水)は、博士後期課程のデザイン、陶磁の2名の、作品と論文の研究成果を紹介しました。以上詳しくは本学ホームページより「SA・KURA特設サイト」(<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/sakura/>)からご覧ください。本年も愛芸アシスト基金より貴重なご寄附を賜り、ありがとうございました。

小西 信之(芸術資料館長)



田中藍衣個展「共有地」



菅隆紀「HOGAN」

04 障害者福祉支援事業での陶芸講座



この活動は、障害のある方々の創作活動を応援するため、芸術系大学の教員等が講師となり障害者支援施設等を訪問して絵画や陶芸等のアート活動を支援していく活動です。2014年度から開催されているこの「あいちアール・ブリュット」事業では、10周年を機に、愛知県との連携協定を締結し、これまで以上の活動とともに、創作活動の支援者育成等を図るための取り組みを推進しています。美術学部では、2024年度より大学院開講科目として「インクルーシブ・アート」を開講しました。今期は、このインクルーシブ・アート受講中の院生とともに、この出前講座を開催しました。

今回実施した布袋病院は、令和2年度に実施した支援施設でしたので前回の経験を基に、新たな試みとして「陶芸」と「医療」との連関性を考究しました。これまでの講座内容とは視点を展開させ、作品の完成形を示さず、身体性とやきものの素材感を感じながら制作していくというアプローチにより心理的な効果を探るという試みです。

病院スタッフの方との綿密な指導計画を立てること、講座の目的を共有することの大切さを痛感することができ、今後のインクルーシブ教育の試みの第一歩となったように思います。受講生の院生にとっては、病院スタッフと協働して一つ

の講座を創り上げる事や講座参加者との発話に耳を傾けながら、制作中のトラブルに臨機応変に対応するといった経験を重ねていくことにより、多様な価値観を持つ人と協働する社会的なコミュニケーション能力を育む機会となりました。

今後は、陶芸制作により障害者の方々がどのような心理的な効果を育んでいるのかという視点も加えた講座の実施と制作者の想いが達成感に繋がっていきけるような取り組みを勘考していきたいと思っています。

この講座で制作した作品は、あいちアール・ブリュット優秀作品特別展(2025年3月11日~16日/愛知芸術文化センターアートスペース12階G)にて成果発表展が行われました。自然光が注ぎ込むきれいな窓際の空間に、参加者の“心の輝き”を垣間見ることができ有意義な支援講座となりました。

今回、愛芸アシスト基金支援事業研究助成費より、「障害者芸術活動支援事業2024 出前講座」で使用した道具購入費に活用させていただきました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

佐藤 文子(美術学部陶磁専攻准教授)

愛芸アシスト基金からのお知らせ

クレジットカードによる決済が可能です。

本愛芸アシスト基金は、金融機関窓口での寄附のほか、クレジットカード決済による寄附ができます。

クレジットカードによる寄附を希望される場合は、下記のURLからお申し込みください。

<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/guide/summary/14.html>



※ご連絡可能なメールアドレスをご用意ください。

※本学のクレジットカードによる寄附は、F-REGI 寄付支払い(株式会社エフレジが運営する決済代行サービス)を使用しております。

ご寄附の手続き

1. はじめに、メールアドレスをご入力ください。
2. ご入力いただいたメールアドレス宛に、インターネット納付用URLのお知らせをお送りします。

メールを受け取られてから3時間以内にインターネット納付用URLを開いていただき、手続きをしてください。
3. 画面の指示に従い、必要事項を記入してください。最後に内容をご確認いただき、お申込み手続き完了となります。
4. 寄附金の払込み手続きをします。
5. 寄附は完了します。(最初にご入力のメールアドレスに寄附完了確認メールを送信します。)
6. ご入金の確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。

(寄附金の領収書は確定申告の際に必要となりますので、大切に保管してください。)